

青年教育事業

本 館

青年学級	みんなの会
------	-------

目 的	障がいのある人を対象に、自立に必要な知識・技能を学ぶ機会を提供するとともに、スポーツ、芸術、レクリエーション等を楽しみながら学級生同士の交流と親睦を図る。
日程・内容	令和4年4月10日（日）から令和5年3月26日（日）までの間の毎月第2週及び第4週の日曜日。午後1時から4時まで。 ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止や開催方法を変更して実施した。 活動の内容（実績）は、別紙のとおり
場 所	公民館緑分館、小金井市障害者福祉センター、小金井特別支援学校等
講 師 等	矢野 典嗣さん（元都立小金井特別支援学校教諭） ボランティアスタッフ 18人
募 集 方 法	講師と面談を行い、定員に達するまで随時受け入れ
人 数	定 員 50人 学級生 40人 延べ参加者 390人
担当企画実行委員	なし
担 当 職 員	大久保 裕広

担当職員感想 今年度もコロナ禍での実施となりました。障がいを持つ学級生や高齢となったボランティア・スタッフの感染防止を念頭に置き、講師と調整のうえ安心・安全な活動を心掛けたため、参加の皆様にはご不便やご面倒な対応を強いてしまいましたが、ご理解とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

日帰りとはなりましたが、3年振りに修学旅行を実施することができ、活動の制限が徐々に緩和されて行く兆しを感じることができました。引き続き、基本的な感染防止策を講じて、みんなの会が楽しい時間になることを願って止みません。

令和4年度みんなの会年間活動実績

回次	開講日	活動内容	場所
1	4月10日(日)	開級式	公民館緑分館 学習室ABC
2	4月24日(日)	ボッチャ	公民館緑分館 レクリエーション室
3	5月8日(日)	オリエンテーリング	都立小金井公園
4	5月22日(日)	俳句&謎解き	障害者福祉センター(グリーンピア)
—	6月5日(日)	保護者会	公民館本館
5	6月12日(日)	テーブル・ボウリング	公民館緑分館
6	6月26日(日)	美術 水彩画	障害者福祉センター(グリーンピア)
7	7月10日(日)	ボッチャ	公民館緑分館
—	7月24日(日)	俳句&謎解き	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止
—	8月6日(土)	テーブル・ボウリング	
—	8月7日(日)	ボッチャ	
8	9月11日(日)	俳句&謎解き(A組のみ)	障害者福祉センター(グリーンピア)
9	9月25日(日)	俳句&謎解き(B組のみ)	障害者福祉センター(グリーンピア)
10	10月9日(日)	テーブルボウリング	公民館緑分館
11	10月23日(日)	運動会	小金井特別支援学校
7	7月10日(日)	ボッチャ	公民館緑分館
—	7月24日(日)	俳句&謎解き	
—	8月6日(土)	テーブル・ボウリング	
—	8月7日(日)	ボッチャ	
8	9月11日(日)	俳句&謎解き(A組のみ)	障害者福祉センター(グリーンピア)
9	9月25日(日)	俳句&謎解き(B組のみ)	障害者福祉センター(グリーンピア)
10	10月9日(日)	テーブルボウリング	公民館緑分館
11	10月23日(日)	運動会	小金井特別支援学校
12	11月13日(日)	俳句&謎解き	障害者福祉センター(グリーンピア)
13	11月27日(日)	美術(水墨画)&謎解き	障害者福祉センター(グリーンピア)

緑 分 館

国際交流イベント	激しく、楽しく、鮮やかなモンゴルの世界
-----------------	----------------------------

目 的 国際化の時代に、外国について学び、歴史や文化を知ることにより、その国に対する理解を深める。

日程・内容

回	日程	内容
1	10月8日（土） 午後2時～4時	ヤギ的モンゴル人とヒツジ的日本人
2	10月10日（月・祝） 午後2時～4時	地政学で考えるモンゴルと日本
3	10月15日（土） 午後2時～4時	草原から生まれたいのちの音楽
4	10月22日（土） 午後2時～4時	パワフルでカラフルなモンゴルのアートシーン

講 師 大西 夏奈子さん（フリーランスライター・編集者）

場 所 公民館緑分館 学習室A・B・C

募集方法 市報9月1日号、月刊こうみんかん9月号、ポスター、チラシ、市HP
公民館ツイッター
往復はがきまたはメール（申込多数のときは抽選）

対 象 市内在住、在勤、在学の方

人 数 募集 30人 応募 36人
受講 36人（男性18人、女性18人）
延べ参加者 102人

担当企画実行委員 赤尾 八朗、大蔵 芳夫、苅込 美津代、後藤 愛子

担当職員 山本 ひろみ

参加者感想 モンゴルの景色や多くの資料、たくさんの写真を交えて生き生きと内容が伝わってきました。とても引き込まれるお話で、まるでその場にいるようなリアルさも感じました。

貫井北分館

青少年教育講座	若者による自主講座 「笑って心も体もすっきり！農工大落研の落語口演と落語講習会」
---------	---

目 的 地域の大学生が、感染症予防対策として安心・安全について検討し、コロナ禍に相応しい落語の演目や会場の環境整備を考慮し、地域の方々と世代間の交流を促進する。

日 程 令和4年8月28日（日）午後2時から4時まで

内 容 落語を聴いた後、せんすや手ぬぐいの使い方を学び、小噺を覚えて、舞台の上で発表する落語家体験をする。

場 所 公民館貫井北分館 北町ホール

募集方法 市報7月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、申込順 電話または直接

対 象 者 市内在住・在勤・在学の方

人 数 募集16人 応募14人 受講13人（男性4人、女性9人）

企画実行 坂本美桜、飯島隆斗、ほか4人（東京農工大学 落語研究会）

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 小学生から70歳代の参加者や武蔵野大学FS実習生が交流を深め、また若者当事者が企画・実施し多くの学びを得たことが伺えました。

参加者感想 ○昨年から楽しみにしていました。楽しい落語をありがとうございました。小学校へも来てほしいです。学園祭もいきたい！
○楽しい時間をありがとうございました！制限の多い世の中ですが、またお聴きできる機会楽しみにしています。
○Thank you so much! It was so much fun! ありがとうございました！

企画者感想 ○3年ぶりの開催で、どうやっていたかとかあまりわからないなかでやるのは難しかった。思ったよりも発表時間が短くなったり、予想していない反応がくると少し大変であった。
○外国の方や高齢者の方、若者が一緒に楽しめるということで、あらためて落語という文化のすごさを感じるとともに、大切にしていこうと感じました。
○拙い部分があったと思いますが、今後も続けられたらと思います。地域住民の皆様、公民館の皆様、ともにあたたく、実施する身としてはとても楽しかったです。

貫井北分館

青少年教育講座	若者による自主講座 「森とクリスマス ～クリスマスリースを作ろう～」
---------	---

目 的	感染症予防対策に配慮して、クリスマスリースを作りながら、森の役割、木にできることのすごさ、間伐の大切さを学びながら、学年や学校を超えた交流で親睦を深める。また若者当事者が自主講座を企画・実施を通してチームで協力・連携することの意義を学ぶ。
日 程	12月17日（土）午後2時から4時まで
内 容	間伐材を使ってクリスマスリースの土台や装飾をし、一人一人がオリジナルのクリスマスリースを作る。
講 師	永田 桃夏 さん（NPO法人緑のダム北相模）
場 所	公民館貫井北分館 創作室
対 象 者	市内在住、在学の小学生
募集方法	市報11月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 多数抽選 往復はがきまたはメール
人 数	募集12人 応募26人 受講11人（男性3人、女性8人）
企画実行	GTE LAB 公民館チーム（蘆田莉央、市川堇、今井裕美、平戸杏樹、前田峻雅、松本七風、矢島百葉、相川愛斗）
担当職員	伊藤 智代子
担当職員感想	体調不良などで講座直前に参加者4人と講師から連絡がありました。参加者はキャンセル待ち3人と、講師は講師から紹介された講師で対応しました。
参加者感想	○中学生のみなさんが、やさしく教えてくれて楽しかったです。みんないろいろなものをつくっていておもしろかったです。 ○いろいろなかざりやくぎをうったりするのがたのしかったです。せつめいがこまかく分かりやすかったです。
企画者感想	○小学生とふれあうことができた。計画的に準備をして、目的に向かって頑張ることができた。なかなかできない貴重な体験をすることができ、やる前もやった後も楽しかった。 ○小学生にどこまでやらせるかを苦労しました。危険な作業もあり、それを小学生にやらせるためにはどのようなことをすればいいか考えました。 ○全員が協力して何かをするのは楽しいなと改めて思ったし、協力するからこそ良い物が生れるなと思った。

貫井北分館

青少年教育講座	若者による自主講座 「回すとうなる！？カラクリ箱を作ろう！」
---------	-----------------------------------

目 的	創造力と理数力で問題解決するSTEAM教育を取り入れて、参加者がオリジナルのカラクリ箱を創る。また参加者同士がお互いの作品の良さを見ながらものづくりを行い、講師の大学生と参加者や参加者同士が、講座を通して学年や学校を超えた交流を体験する。また地域の大学生が自主講座として企画・実施することで、チームワークの大切さや地域との交流を深める。
日 程	1月15日（日）午後2時から4時まで
内 容	ティッシュ箱などの空き箱、ストロー、針金などを加工し、回して動かすカラクリ箱を創る。
講 師	東京学芸大学 サークルSTEAMer 代表 吉村 健志 さん
場 所	公民館貫井北分館 創作室
対 象 者	市内在住・在学の小学3年生から6年生
募集方法	市報12月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 申込順 電話またはメール
人 数	募集16人 応募16人 受講15人(男性8人、女性7人)
企画実行	TGUものづくり魅力発見隊（前原 絆、古川 翔一）
担当職員	伊藤 智代子
担当職員感想	講座中の様子やアンケートから、参加者と企画実施者が共に学び合い、交流を深めていたことがわかりました。
参加者感想	○からくり箱をつくって、こういうしくみで、こう動くのか！と考えるのが楽しかった。 ○大学生の方達が優しく教えてくれてよかったです。
企画者感想	○色々な発想を目にすることができ、我々にとってもいい刺激になった。また、子どもたちが問題に真剣に取り組んでいる様子がたのしかった。 ○児童たちのアイデアの多さに驚きました。大人たちはどんなアイデアが出るかを予想してワークショップに取り組む必要があることがわかりました。 ○自分でやりたい子と、手伝ってもらいたい子の見分けには苦労します。どこまで手伝えばよいかということもなかなか難しかったです。

貫井北分館

青少年教育講座	若者による自主講座 「めざすはゴール！ゴム動力カーを作ろう！」
---------	------------------------------------

目 的 創造力と理数力で問題解決するSTEAM教育を取り入れて、ゴム動力カーをつくる。また試行錯誤しながらゴールする達成感を実感すると共に、講師の大学生と参加者や参加者同士が、講座を通して学年や学校を超えた交流を体験する。また地域の大学生が自主講座として企画・実施することで、チームワークの大切さや地域との交流を深める。

日 程 2月12日（日）午前10時から正午まで

内 容 ブロック教材を使って車をつくり、ゴムの力で車を動かし、ゴールすることを目指す。



講 師 東京学芸大学 サークルSTEAMer 代表 吉村 健志 さん

場 所 公民館貫井北分館 学習室A・B

対 象 者 市内在住・在学の小学生

募集方法 市報1月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 多数抽選 往復はがきまたはメール

人 数 募集16人 応募16人 受講15人(男性8人、女性7人)

企画実行 TGUものづくり魅力発見隊(前原 絆、古川 翔一)

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 アイスブレイキングで、参加者全員が参加するパッチンリレーで、身体を動かして笑い合いました。その後、緊張がほぐれたようで、ワクワクしながら集中して楽しく講座に参加している様子が伺えました。

参加者感想 ○いろいろな頭を使って、できてうれしかった。失敗してもいっぱいやったから楽しかった。
○車をつくったりして、ゴムの力でもどってくるのを利用するところがおもしろかった。

企画者感想 ○試行錯誤しながら、色々考えて作り直している子がいて、ねらい通りのワークショップができていたと思う。
○児童と話すことが楽しいと思った。私は人と話すことが苦手であるが、自分から話しかけることで、段々と話すことに対して楽しくなることに気づいたのは大きな変化だと思った。
○得るものが多く、今後の企画にもこの経験を活かしていきたいと思った。

貫井北分館

青少年教育講座	若者による自主講座 「木トリス ～パズルゲーム木で作ろう～」
---------	-----------------------------------

目 的	感染症予防対策に配慮して、木を使用した遊びを通して、木育、木の大切さや環境について学び、学年や学校を超えた交流で親睦を深める。また若者当事者が自主講座を企画・実施を通してチームで協力・連携することの意義を学ぶ。
日 程	3月12日（日）午後2時から4時まで
内 容	木でできた立方体を組み合わせてブロックを作り、参加者同士がチームに分かれて一緒にゲームをする。また、森を守るために、なぜ間伐が必要なのかや、森の生物について学ぶ。
講 師	宮村 連理 さん（東京学芸大学附属小金井中学校 教諭）
場 所	公民館貫井北分館 創作室
対 象 者	市内在住、在学の小学生
募集方法	市報2月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 多数抽選 往復はがきまたはメール
人 数	募集16人 応募25人 受講13人（男性8人、女性5人）
企画実行	GTE LAB 公民館チーム（矢島百葉、新木雄太、佐藤勇真、国富豪、熊谷碧、末吉良多、鈴木友結、築地真帆、松谷航太、相川 雅門）
担当職員	伊藤 智代子
担当職員感想	中学1年生が2年生の先輩企画を参考にした初企画。実施に向けてコミュニケーションを深め、チーム力が向上したことが伺えました。
参加者感想	○木をきったら、空気が少なくなると思っていたら、木をちょっとへらさないと木がうまく育たないと知れました。 ○木をなんで切るのかということの理由を知れて良かったです。木でこんな楽しい遊びが出来るとは知りませんでした。最高！
企画者感想	○目の前で、参加者の笑顔（喜んでる姿）を見れたこと。自分たちだけで、ほぼこの企画を行ったので、達成感を感じられた ○ルールを子どもに説明するのが難しかった。子どもとふれあう機会が少なかったため、どういう会話をすればよいのか分からなくて苦労した。子どもと会話することは難しかった。 ○今回の講座の最大の成果は、小さい子どもたちにまで間伐の理解を広められたことだと思います。これをきっかけに森林や環境の仕組みについて興味を持ってくれる人が増えたらいいなと思います。

貫井北分館

青少年教育講座	若者による自主講座 「法政大学将棋部が教える将棋体験教室」
---------	----------------------------------

- 目 的** 将棋の基本を楽しく習得しながら、大学生と世代間の交流を促進する。
また、地域の大学生が自主講座として企画・実施することで、チームワークの大切さや地域との交流を深める。
- 日 程** 令和5年3月25日（土）午後2時から4時まで
- 内 容** 第9回貫井北センターまつりの来場者が誰でも参加でき、初心者には将棋を教え、また将棋経験者には対局を楽しんでいただく。
- 場 所** 公民館貫井北分館 生活室A B
- 募集方法** 市報こがねい3月1日号（第9回貫井北センターまつりのイベントの一環として掲載）、ポスター・チラシ、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、当日直接会場へ
- 対 象 者** どなたでも
- 人 数** 参加者23人（男性21人、女性2人）
- 企画実行** 法政大学 小金井将棋部（三石康生、鈴木十葉、金川大悟、塚田平太郎、福田弘平、小川純貴）
- 担当職員** 伊藤 智代子
- 担当職員感想** 参加者は4歳の女の子から70歳代男性と幅広い世代が将棋を楽しみました。コロナ禍のため延期が続き3年ぶりの開催になりました。
- 参加者感想** ○誰でも参加できてよかった。また参加したい。
○小学校の頃、教室に将棋があり、将棋はその時以来。楽しかった。（6歳の娘さんと参加した父親の感想）
- 企画者感想** ○様々な年齢の方とのコミュニケーションを通して、興味をもってもらうにはどうすればよいかについて、今後に活かすことができる教え方を考えることができた
○どこまで教えるべきかを考える事が大変だったように思います。一人一人に対して、時間をどの程度までかけるべきかを考える事が大変だったと思います。
○将棋という競技の性質もありますが、人に何かを教えるにあたっての用意の大切さについて、改めて実感することができました。

貫井北分館

青少年教育講座	世代間交流の推進 はじめてのマンガイラスト講座
---------	----------------------------

目 的	マンガやイラストの技法や漫画家の仕事について、漫画家でもある講師から学ぶ。また感染症予防対策による「新しい生活様式」でも楽しめる、学校や学年を超えた交流を促進する。
日 程	7月31日（日）午後1時から5時まで
内 容	マンガ制作の日程、流れなどからマンガ制作関連の仕事について知る。また、制作上で必要なストーリー、テーマ、キャラクターなどの説明後、実際の描き方などを体験する。
講 師	柚木 元さん（東京工学院専門学校元講師、『ハヤテのごとく！』畑健二郎先生の元チーフアシスタントほか）
場 所	公民館貫井北分館 創作室
募集方法	市報7月1日号、チラシ、ポスター、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、小金井市立中学校全5校の全生徒チラシ配布 多数抽選 往復はがきまたはメール
対 象	市内在住・在勤・在学の中学生以上25歳くらいまでの方
人 数	募集 16人 応募 29人 受講 14人（男性4人、女性10人）
担当職員	伊藤 智代子、高木 貴紀
担当職員感想	市内全域の中学校から29人の応募があり、定員8人を16人に増やして対応。感染症対策としてアクリル板の設置など実施。チラシは東京学芸大学生 近藤実里さんが、講座の主旨を理解して作成。
参加者感想	○イラストの描き方だけでなく、将来にどう活かすかなど、いろんなことを学べて良かったです。 ○今回の講座をうけてみて、あたりの線や、表情などの絵の技術やマンガ家についても知ることができて、とても勉強になりました。 ○線を自信をもって大きくかくというところが、とても印象に残りました。これから上手になるためにどうすればいいかも分かりました。貴重な体験でした。ありがとうございました。 ○スクリーンで大きくうつして、ていねいにこまかく説明していただいてわかりやすかったです。 ○マンガの制作過程やキャラクター表など、とてもマンガ作りの参考になりました。アドバイスが的確で、わかりやすかったです。

貫井北分館

青少年教育講座	世代間交流の推進 ちょっとスペシャルな フラワーアレンジメント
----------------	--

目 的	感染症予防対策を実施しながら、講師の花屋さんから花の流通や花の名前、おうち時間を楽しむフラワーアレンジメントを学び、講師との交流や、学校や学年を超えた参加者間の交流を推進する。
日 程	8月8日（月）午後1時から3時まで
内 容	花の話、選び方などの説明を受け、日頃の生活の中で、花を楽しむ方法やフラワーアレンジメントの基礎を学ぶ。最後に、フラワーアレンジメントを体験した感想を発表してもらい、参加者の交流を深める。
講 師	森 このみさん（Flower & PETAL 代表）
場 所	公民館貫井北分館 創作室
募集方法	市報7月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、 多数抽選 往復はがきまたはメール
対 象	市内在住・在勤・在学の中学生以上25歳くらいまでの方
人 数	募集 8人 応募 9人 受講 8人（男性1人、女性7人）
担当職員	高木 貴紀、伊藤 智代子
担当職員感想	お花の向きや全体のバランス、長さなど、講師が全体を周りながらアドバイスをしてくださり、参加者の方から手を挙げて質問している姿も見られました。参加者が迷いなく、楽しそうに集中して作業を進めていく様子が印象的でした。社会教育実習生2名が参加し、会場の準備や受付、片付け、参加者のサポートなどを行いました。
参加者感想	○おしえてくれてありがとうございました。 ○はじめてでもいがいときれいにできたのでうれしかったです。家でもつくってみたいです。 ○花の名前とか見るのは好きだったけど、かざるのは苦手だったけど、今日やってみて、楽しかった。 ○今日は、いろ色の名前を知りました。ほかにも花言葉などを知りたいと思いました！ありがとうございました！ ○あまりない経験だったので楽しかったです。花についてもっと知りたいと思うきっかけになりました。

貫井北分館

青少年教育講座	世代間交流の推進 木育ガール キキちゃんとマイ木琴を作ろう！～木育×STEAM 教育～
----------------	--

目 的	感染症予防対策に配慮して、参加者間でワークショップを通して、学年や学校を超えて交流し、親睦を深める。
日 程	8月9日（火）午後1時から4時まで
内 容	木育ガール キキちゃんと、自分だけのマイ木琴づくりのワークショップ。「木とふれあい、木に学び、木でつながる」木育を体感する。
講 師	前田 彩世さん（東京学芸大学 大学院生）
場 所	公民館貫井北分館 創作室
募集方法	市報7月1日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、東京学芸大学附属小金井小学校4年生から6年生チラシ配布 多数抽選 往復はがきまたはメール
対 象	市内在住・在勤・在学の小学4年生以上6年生までの方
人 数	募集 8人 応募 9人 受講 8人（男性4人、女性4人）
担当職員	伊藤 智代子、高木 貴紀
担当職員感想	対話形式で講座を進行し、参加者も積極的に発言や質問が出来る雰囲気を作ってくださいました。制作した木琴を鳴らして参加者全員で曲を演奏している様子を個人が特定できないように撮影し、講師のユーチューブチャンネルで公開しました。曲の著作権については講師が対応済みです。社会教育実習生4名が参加し、積極的に参加者に声を掛けたり、寄り添ったりと、それぞれの性格に合った関わり方をしている姿が印象的でした。
参加者感想	○つくったことがないのをやってみてはじめ少し大変で、むずかしいなと思ったけど分かりやすく教えてくれたので楽になりました。 ○ユーチューブをみてみたい ○まるくておもしろい木琴ができてたのしかったです。 ○スタッフの人が優しく教えてくれてよかった。 ○とても楽しかったです ○ふつうの木琴とは少しちがうけれど、とても楽しかったです！

貫井北分館

青少年教育 講座	世代間交流の推進 防災食を活用！作って楽しむきたまち食堂 Part2
---------------------	---

目 的	感染症予防対策に配慮し、防災食を使用した簡単な調理法を「まちの先生」から学び、学校や学年を超えた交流を講師と参加者間が深める。
日 程	1 1 月 5 日（土） 1 回目：午前 1 0 時から 1 2 時まで 2 回目：午後 2 時から 4 時まで
内 容	防災食を使用して「アルファーマオムライス」と「簡単レアチーズケーキ」を作る。また防災時に必要な物品の確認や、調理を通して講師と参加者が交流を深める。
講 師	潮田 彩さん（専門調理師、もぐもぐ子ども調理室代表講師）
場 所	公民館貫井北分館 生活室 A・B
参 加 費	5 0 0 円(材料費)
募集方法	市報 1 0 月 1 日号、ポスター・チラシ、市 H P、貫井北センター H P、 貫井北分館ツイッター 多数抽選 E メール
対 象	市内在住・在学の小学生の方
人 数	募集 各回 8 人（多数抽選）× 2 回 応募 午前 1 0 人 午後 8 人 受講 午前 8 人(男性 1 人、女性 7 人) 午後 8 人(男性 4 人、女性 4 人) 延べ参加者 1 6 人
担当職員	高木 貴紀、伊藤 智代子
担当職員感想	受講者が楽しそうに活動している姿が印象的でした。防災食を食べ慣れておくために、日常の中でよりおいしく食べるという目的、防災時にも活かせるよう、水や電気が使えない状況でも再現できるという目的の 2 つを軸にすることが次回の課題です。
参加者感想	○オムライスがもっとむずかしいと思ったけど先生の言い方がわかりやすかったからすごかった。 ○おもしろかったです、レシピがかんたんだから、いえでもつくってみたいです。 ○防災食をつかって、かんたんにつくれてよかった。また防災の知識も知れてよかった。他にも食器のふき方を知れてよかった。

貫井北分館

青少年教育 講座	世代間交流の推進 プラネタリウム解説員が語る星空のお話 ～ドームに入って星空を観賞しよう～
---------------------	--

目 的	天体観測を通して天文・宇宙分野への関心を高め、理解を深める。講師と参加者の交流、学校や学年を超えた参加者同士の交流を深める。
日 程	2月12日（日）午後2時から4時まで
内 容	疑似プラネタリウムを鑑賞して星空について学び、天文・宇宙分野への関心を高め、星をもっと身近なものにする。取り上げた星に関するギリシャ神話や星のロマンを語り合い、質疑応答を通して交流を深める。
講 師	ステラ・マリーノ 坪内重樹さん（プラネタリウム解説員）
場 所	公民館貫井北分館 北町ホール
参 加 費	無料
募集方法	市報1月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 多数抽選 往復はがき、Eメール
対 象	市内在住・在勤・在学の小学5年生以上25歳までの方
人 数	募集 16人（多数抽選） 応募 8人 受講 7人
担当職員	高木 貴紀
担当職員感想	講師の問いかけに答えたり、リクエストや質問が飛び交ったりしている様子が印象的でした。通常のプラネタリウムではなかなか味わえない対話を生かした素敵な解説が満足度の高さに繋がったように思います。
参加者感想	○中野 zeroの方でプラネタリウムの解説をして頂けるのを楽しみにしております。プラネタリウムの解説の仕方等、とても勉強になりました。ありがとうございました。 ○天文学への興味がより広がりました。ありがとうございました。 ○プラネタリウムを実際に見てみて感動しました。特に星座の絵が見れるところが分かりやすかったです。今度星を見たとき何の星座か調べて見てみます。しつもんできて、知りたい星などが見れて良かったです。ありがとうございました。

貫井北分館

青少年教育 講座	健全育成事業 マンガ de トーク～ボクらの時代のヒーロー像～
-------------	------------------------------------

目 的	なぜ話題になっているのか、マンガを通して文化や社会状況等の " 今 " を見る。また、人の好みや楽しみ方など、好きなところから生き方やその人らしさを見出し、多様性の理解に繋げる。
日 程	11月20日（日） 午後2時から5時まで
内 容	好きなマンガを紹介し合い、様々な感じ方や考え方を知り、自分と他者の違いを認め合う。その後、講師の先生から文化や社会状況を踏まえて総評をいただき、多様性理解へと繋げる。
講 師	小西 公大さん（東京学芸大学 准教授）
場 所	公民館貫井北分館 学習室C・D
参 加 費	無料
募集方法	市報10月15日号、チラシ、ポスター、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、小金井市立中学校全5校の全生徒チラシ配布、近隣学校へのチラシ配布、館内POP設置
対 象	市内在住・在学の小学生の方
人 数	募集 12人（多数抽選） 応募 5人 受講 4人
担当職員	高木 貴紀、伊藤 智代子
担当職員感想	好きなキャラクターの魅力から、どこに憧れているのか、自分がどうなりたいか等に発展させて深掘しました。好きを語れた充実感と、自分と向き合ったり悩みを話せたりしたことによるすっきりとした表情が印象的でした。マンガに限定せず、テーマを決めて好きなものを語る方法にする等、集客に繋がる工夫が次回の課題です。
参加者感想	○自分の好きなキャラクターについてなぜ好きなのかを考えると、自然と自分と向きあっていました。さらに話している中で他の人の言葉がしっくりきたり、改めて気づくことがたくさんあって、あっという間の3時間でした。ありがとうございました。 ○すごく楽しかったです。こんな話は余所ではできないので、けっこう好きなように話せてよかったです。 ○思っていた以上に自分の考えなどをかたれてよかったです。とても満足です。

貫井北分館

若者コーナー	環境づくり 文化祭・学園祭ポスター掲示
--------	---------------------

目 的 地域にある高校や大学など教育機関の文化祭・学園祭のポスターを掲示し、学生の進路選択、地域住民と教育機関の情報交換の促進、および公民館と教育機関の連携につなげる。

日 程 8月8日（月）から11月30日（水）まで

内 容 文化祭や学園祭のポスターを掲示

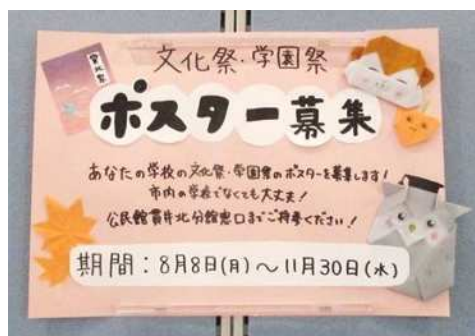
場 所 公民館貫井北分館

募集方法 チラシ、ポスター、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、市内や近隣の公立・私立の高校・大学にポスター提供協力を依頼

参 加 校 私立高校2校、国立大学3校、私立大学2校の合計7機関

担当職員 高木 貴紀

担当職員感想 「文化祭・学園祭ポスター募集」のポスターは、武蔵野大学学外学習（フィールド・スタディーズ）生が実習の一環として若者当事者に関心を持ってもらうための工夫をしながら作成しました。ポスターは、文化祭実行委員長や広報担当の学生が持参して提供してくれました。コロナ禍で学外からの訪問不可などの制限や、ポスターを作成していない学校もあったものの、「毎年楽しみにしています」、「懐かしい気持ちになりました」など、来館者から感想もありました。また公民館貫井北分館では22時の閉館まで学習をしている学生が多数おり、進路選択や学習の励みとなるためにも「文化祭・学園祭ポスター掲示」は継続的に毎年開催が望ましいと思われます。

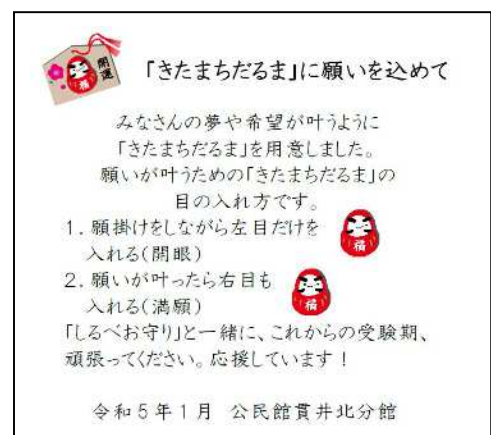


貫井北分館

青年教育事業

環境づくり しるべお守り・きたまちだるま

- 目 的** 公民館貫井北分館のフリースペースを利用している中学生以上の若者世代に、普段から公民館で一生懸命に学習に取り組んだ自分自身を思い出し、定期テストや受験などの励みにしてもらい、地域の居場所と感じてもらえるための環境づくりの一環として実施。
- 日 程** 1回目 令和5年1月5日(木)から11日(水)
2回目 令和5年2月6日(月)から10日(金)
3回目 令和5年2月20日(月)から26日(日)
- 内 容** 若者コーナーのキャラクター「キタはかせ」のゴム印を表紙にした「しるべお守り」と、折り紙で作成した「きたまちだるま」を配布し、定期テストや受験などの励みにしてもらう。



感染症対策のため、個装にして配布。袋の表裏に、「しるべお守り」と「きたまちだるま」にこめたメッセージなどを記載。

場 所 公民館貫井北分館 階段降口

担当職員 伊藤 智代子・高木 貴紀

担当職員感想 公民館貫井北分館では、フリースペースを、9時から22時まで、感染症予防対策に配慮し、座席場所や間隔をあけ、全46席開放しています。

また、利用者の安心・安全のため、防犯も兼ねて1時間に一度見回りと利用者数を数えています。今年度は、大学や高校入試の時期に合わせ3回に分けて実施。今後も、利用者と様々な形態によるコミュニケーションツールを利用し、居場所としての心地良さだけでなく、学習を支え、個々の自己実現を支援する学び合いの場としての公民館の環境づくりを工夫していきたいと思っています。

